

第 158 回 杉並区荻窪八幡神社の小俣金治像

筆者：林 久治（記載：2021年6月15日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\)のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。3 回目の「緊急事態宣言」が、東京、大阪、兵庫、京都の 4 都府県で、4 月 25 日から 5 月 11 日までの 17 日間、出されることとなった。そこで、私は発令前日の 4 月 24 日に、小平市泉蔵院に設置された高木亮範像を探索した。その探索記を [152回の記事/f](#) に記載した。26 日には散歩を兼ねて東久留米駅前のブラック・ジャックとピノコ像を探索した。5 月 1 日にも散歩を兼ねて朝霞の綿谷新之助像を探索した。これらの探索記を [153回の記事/f](#) に記載した。

内田秀五郎像は、杉並区善福寺公園、立川市 JA 東京、及び新宿区淀橋市場の 3 ケ所に設置されており、神藤庄太郎像は東久留米市に設置されている。これらの像は [1\)のサイト/](#) に収録されている。しかし、これら 4 像の建立時期、制作者、銘文などの基礎情報が全く記載されていない。これでは、「銅像データベースの礎となることを目指す」ことをモットーにする本サイトの名折れである。そこで、私は 4 像を探索し、その探索記を [154回の記事/f](#)、[155回の記事/f](#)、[156回の記事/f](#)、及び [前回の記事/f](#) に記載した。

杉並区荻窪八幡神社の小俣金治像も [1\)のサイト/](#) に収録されているが、その基礎情報が全く記載されていない。そこで、私は 6 月 11 日に本像を探索した。本稿はその探索記である。本稿では資料からの引用を **緑文字** で、私の注釈や意見は **青文字** で記載する。

（2）杉並区の荻窪八幡神社

次ページの図 1 上に、荻窪駅と荻窪八幡神社の周辺地図を示す。荻窪駅から荻窪八幡神社（東京都杉並区上荻 4-19-2）までの道順は次の通りである。①JR 荻窪駅の北口に行く。②路線バスの「0 番乗場」（図 1 中参照）に行く。③関東バスの南善福寺行き（荻 36 系統）に乗る。④発車 5 分位で、荻窪警察署前下車。④バス停前に荻窪八幡神社の鳥居がある。

（本文は、3 ページに続く。）

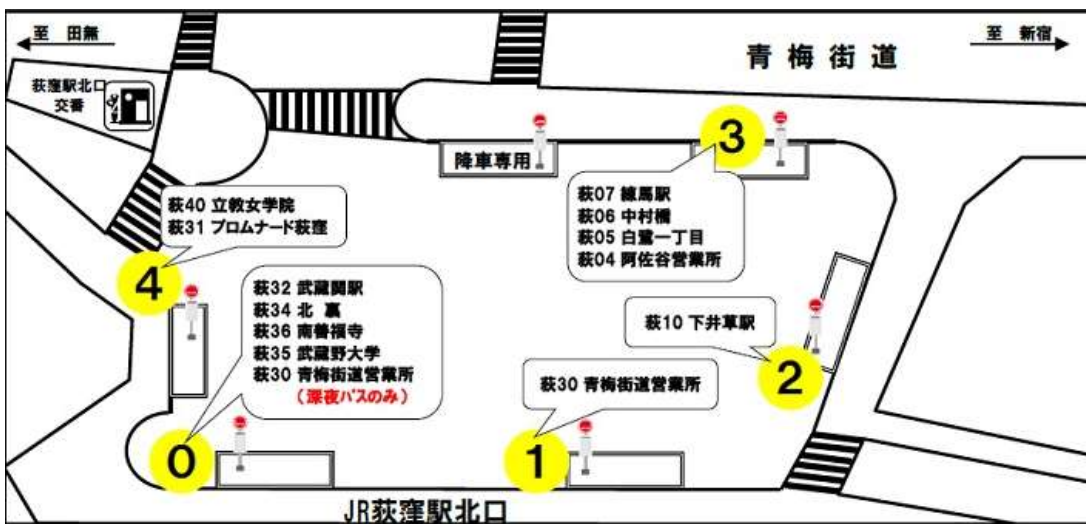


図1. 上：荻窪駅と荻窪八幡神社の周辺地図 本図は、[2\) のサイト/2](#)より借用。
 中：JR 荻窪駅北口の本乗場 本図は、[3\) のサイト/5](#)より借用。下：荻窪八幡神社の構内図 本図は、[4\) のサイト/1](#)より借用。

図1下に、当社の境内図を示す。青梅街道に面して、当社の鳥居があった（図1下の①地点）。その写真を図2上に示す。鳥居から奥は、大木が多い鎮守の森で、荻窪の街の中で、ここだけ神聖な空気を感じられた。鳥居を入ると、右側に当社の案内板があった。その写真を図2下に示す。



図2. 上：青梅街道に面した鳥居、下：荻窪八幡神社の案内板

当社の案内板には次のように書かれていた。

荻窪八幡神社

この神社は旧上荻窪村の鎮守で、今から約千八十年前の寛平年間に、応神天皇を祭神として建立されたと伝えられています。

永承六年（1051）、源頼義が奥州の阿部貞任征伐の途中、ここに宿陣して戦勝を祈願し、のち康平五年（1062）凱旋の時、神恩に感謝して当社を厚く祭ったといわれています。

また文明九年（1447）四月、江戸城主太田道灌は、上杉定正の命をうけ石神井城主豊島泰経を攻めるにあたり、源氏のお話にならってこの神社に武運を祈願しました。この時植えた榎の樹一株が、五百年の歳月が経過した今も、「道灌榎」と呼ばれ、ご神木として大切に保護されています。

なお、当社には、永仁二年（1294）、嘉慶二年（1388）、応永二十九年（1422）銘の板碑、その他土器や石器類、社宝の勝海舟の大幟、掛軸などがあります。

祭日は九月十五日です。

昭和五十四年二月一日 杉並区教育委員会

なお、鳥居の左側に当社の文化財を示す3本の碑があり、それらには次のように書かれていた。

荻窪八幡神社のコウヤマキ：杉並区指定文化財 天然記念物（植物）、昭和61年3月31日指定

延宝七年銘石造狛犬：杉並区指定文化財 有形文化財（彫刻）、昭和59年3月31日指定

板絵着色製茶図：杉並区指定文化財 有形民俗文化財（信仰）、平成15年3月12日指定

鳥居を入り境内を直進すると、参道は直角に曲がっており、その角に1基の胸像が設置されていた（図1下の②地点）。その写真を図3に示す。銅像の右側にある末社は猿田彦神社である。銅像の説明は後回しにして、まずは当社の本殿を紹介しよう。



図3. 猿田彦神社の横に設置された胸像（小俣金治像）



図4. 上：祓門と神門、下：拝殿と狛犬

小俣像の位置（図1下の②地点）から見た祓門と神門の写真を図4上に示す。神門を入ると、内部は回廊に囲まれており、その正面に拝殿があった。拝殿の写真を図4下に示す。拝殿前には、延宝七年銘の石造狛犬が設置されていた。延宝七年は1679年である。[4\)のサイト/1](#)によれば、拝殿は昭和11年新築・平成8年屋替で、その奥にある本殿は明治28年新築・平成8年屋替(方六尺／総檜造)である。



図5. 道灌槇の案内板

回廊内部には、「道灌槇」があった。その案内板の写真を図5に示す。案内板の背後に見えるコモで巻かれた木が「道灌槇」である。案内文は次の通りである。

槇の御由緒

関東管領であり、武蔵の領主であった、上杉定政に対し、家臣の長尾景春が武蔵を侵さんとして石神井城主・豊島泰経及びその甥の平塚城主・豊島泰明と款を通じて反逆した。

之を激怒した上杉定政は江戸城主太田道灌に出陣を命じた。道灌は文明九年(1477)四月十三日平塚城を攻撃し四囲より火を放った。この急報に豊島泰経は道灌軍の背後を突き、江戸城へ進撃せんとして江古田、沼袋の線で石神井城へ進撃する道灌勢と遭遇し後世「江古田の合戦」と伝えられる戦いを開いたが豊島軍利あらず、道灌軍は騎虎の勢をもって石神井城に迫った。

文明九年四月十六日、道灌軍は東及南より石神井城を攻撃するに当って、道灌は当社に詣で戦捷を祈願して軍神祭を行ない、槇樹一株を献植した。これが今当社に伝わる道灌槇で、一根二幹であったが、昭和九年(1934)の暴風雨で一幹折損し一幹となり、樹齢五百年を経た今なお、「千年の社・百尺の高野槇」と称えられている。

昭和六十一年三月、杉並区・天然記念物(植物)に指定された。 荻窪八幡神社社務所

東側参道の入口(図1下の③地点)に立派な鳥居があった。この花崗岩の大鳥居は自然石の造りのものとしては区内最大、都内でも靖国神社について大きい。高さは6.7m、幅は10.6mである。なお、紙面の都合で、本鳥居の写真は省略した。

(3) 小俣金治像

前記のように、当社内の猿田彦神社横（図1下の②地点）に、小俣金治像が設置されていた。その近接写真を図6上に示す。台座正面には「小俣金治先生之像」と書かれた題字が貼られていた。本像背面には「1962 一草作」とのサインが彫られていた（図6下右）。



図6.

上：小俣金治先生之像、

下左：台座側面の銘板

下右：本像背面に彫られた
制作者のサイン。



台座側面には、銘文が貼られていた。その写真を図6下左に示す。本文には、次のように書かれていた（括弧内は林の加筆）。

小侯先生は父祖代々神職の家に生れ明治三十五年（1902）桃井小学校に奉職三十有余年先生の薫陶を受けし者数千名に及ぶ又荻窪八幡神社神職として五十有余年郷土の発展に尽す茲に先生を敬慕し寿像を建て崇高なる人徳を偲び教訓を後世に伝う

昭和三十七年（1962）九月吉日 小侯金治先生を讃える会

本像の周辺には、上記の銘文以外には、小侯先生の経歴や業績を記載した文書は存在しなかった。そこで、小侯先生の経歴をネットで検索した。しかし、次のような記事しか見つけることが出来なかった（[5）のサイト/m](#)）

小侯家の祖先は小田原の山伏であったというのが代々荻窪八幡の宮司をつとめる家柄。また同家の墓地より1294年の板碑が出土している。

本像の制作者の「一草」は「尾崎一草」であり、[6）のサイト/1](#)によれば彼の略歴は次の通りである。

尾崎一草は、明治32年（1899）、東京都生まれの木彫家です。吉田芳明（1875～1643）に師事。創型会同人、帝展入選、美術協会展受賞。昭和61年（1986）没。享年87歳。

なお、荻窪八幡神社の紹介は次のサイトが優れている。

[5）のサイト/m](#)、[7）のサイト/r](#)、[8）のサイト/1](#)

以上の資料などにより、小侯像の概要は次の通りである。

小侯金治先生之像

設置場所：東京都杉並区上荻4-19-2 荻窪八幡神社内猿田彦神社横

設置時期：1962年9月吉日

設置者：小侯金治先生を讃える会

制作者：尾崎一草（1899-1986）

設置経緯：小侯金治先生の生年、没年、経歴は不明。台座の銘文は以下の通り（括弧内は林の加筆）。

小侯先生は父祖代々神職の家に生れ明治三十五年（1902）桃井小学校に奉職三十有余年先生の薫陶を受けし者数千名に及ぶ又荻窪八幡神社神職として五十有余年郷土の発展に尽す茲に先生を敬慕し寿像を建て崇高なる人徳を偲び教訓を後世に伝う

昭和三十七年（1962）九月吉日 小侯金治先生を讃える会

参考資料

1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>

2) のサイト：

<https://www.mapion.co.jp/m2/35.71059347,139.60633106,16/poi=L0697722>

3) のサイト：<https://airvariable.asablo.jp/blog/2010/10/19/5426395>

4) のサイト：<https://www.ogikubohachiman.org/new1.html>

5) のサイト：<http://park12.wakwak.com/~tkj/jinnja.htm>

6) のサイト：<https://ameblo.jp/kobijutsu-shu/entry-11991380841.html>

7) のサイト : <https://alis.to/matol/articles/aE060kowNNwr>

8) のサイト : <https://ameblo.jp/benben7887/entry-12376317582.html>